

第46回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

ジオスター株式会社

当社は、第46回定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結注記表および個別注記表につきましては、法令および定款第16条の規定に基づき、当社ホームページ (<http://www.geostr.co.jp>) に掲載することにより株主の皆さまに提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

すべての子会社（7社）を連結しております。

レスコハウス株式会社

和泉工業株式会社

ジオファクト株式会社

関西ジオスター株式会社

九州ジオスター株式会社

GEOSTR-RV PTE. LTD.

GEOSTR RV(M) SDN. BHD.

(注) 1. 当連結会計年度より新たに設立したGEOSTR-RV PTE. LTD. 及びGEOSTR RV(M) SDN. BHD. を連結の範囲に含めております。

2. 和泉工業株式会社、関西ジオスター株式会社及び九州ジオスター株式会社は、平成27年4月1日付でジオファクト株式会社と合併いたしました。

(2) 持分法の適用に関する事項

該当ありません。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、GEOSTR-RV PTE. LTD. 及びGEOSTR RV(M) SDN. BHD. の海外2社の決算日は、12月31日です。連結計算書類の作成にあたっては、同社の決算日の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

(4) 会計処理基準に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

・ 其他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産

・ 商品、製品、原材料、仕掛品
（未成工事支出金除く）、貯蔵品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

・ 仕掛品（未成工事支出金）

個別法による原価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

- イ. 有形固定資産
(リース資産を除く) 定率法によっております。
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。
- ロ. 無形固定資産
 - ・ 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
 - ・ その他の無形固定資産 定額法によっております。
- ハ. リース資産
 - ・ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 完成工事補償引当金 レスコハウス株式会社は引渡後に発生する住宅の瑕疵補修に備えるため、将来の見積補修額に基づいて計上しております。
- ハ. 賞与引当金 従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
- ニ. 役員退職慰労引当金 役員に対する退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。
- ホ. 受注損失引当金 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における受注案件のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができるものについて、その損失見込額を受注損失引当金に計上しております。

④ 退職給付に係る会計処理の方法

- イ. 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により、発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
- ハ. 小規模企業等における簡便法の採用 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

- イ. 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 工事進行基準
（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- ロ. その他の工事 工事完成基準

⑥ その他連結計算書類作成のための重要な事項

- イ. のれんの償却方法及び償却期間 のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。
- ロ. 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が74,249千円増加し、利益剰余金が47,787千円減少しております。また、当連結会計年度の営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失はそれぞれ1,512千円減少しております。

なお、当連結会計年度の1株当たり当期純資産額が1.48円減少し、1株当たり当期純損失金額は0.05円減少しております。

3. 表示方法の変更

従来、営業外収益の「その他」に含めて計上しておりました受取ロイヤリティーは、当連結会計年度より、「売上高」に含めて計上することに変更しました。

この変更は、海外進出を推進する中で、今後、技術供与先より受け取るロイヤリティー収入についての重要性が増すことが予想されるため、当社の営業活動の成果をより適切に表示するために行うものであります。

4. 連結貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の一部を次のとおり担保に供しております。

工場財団

担保に供している資産

建物及び構築物	291,490千円
機械装置及び運搬具	18,829千円
土地	3,133,870千円
計	3,444,190千円

担保に付している債務

長期借入金	50,000千円
-------	----------

- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 14,400,992千円

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度期末の株式数
普通株式	31,530,000株	—	—	31,530,000株

(2) 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度期末の株式数
普通株式	243,482株	1,346株	—	244,828株

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

平成26年6月27日開催の第45回定時株主総会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 62,573千円
- ・1株当たり配当額 2.0円
- ・基準日 平成26年3月31日
- ・効力発生日 平成26年6月30日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

平成27年6月26日開催の第46回定時株主総会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 31,285千円
- ・1株当たり配当額 1.0円
- ・基準日 平成27年3月31日
- ・効力発生日 平成27年6月29日

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資産運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、販売管理規程及び与信管理要領に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は、運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 現金及び預金	1,002,499	1,002,499	—
(2) 預け金	901,002	901,002	—
(3) 受取手形及び売掛金	8,195,296	8,195,296	—
(4) 未収入金	1,777,895	1,777,895	—
(5) 投資有価証券 その他有価証券	1,344,553	1,344,553	—
(6) 支払手形及び買掛金	(4,308,327)	(4,308,327)	—
(7) 未払金	(1,874,346)	(1,874,346)	—
(8) 短期借入金	(1,760,000)	(1,760,000)	—
(9) 長期借入金	(1,550,000)	(1,550,000)	—

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 預け金、(3) 受取手形及び売掛金、並びに(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

その他有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。

(6) 支払手形及び買掛金、(7) 未払金、並びに(8) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(9) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	78,859

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(5) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

7. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 452円69銭 |
| (2) 1株当たり当期純損失 | 8円56銭 |

(注) 連結計算書類中の記載数字は、表示単位未満の端数を切り捨てております(1株当たり情報については、表示単位未満を四捨五入)。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

- | | |
|--------------------|---|
| ① 子会社株式 | 移動平均法による原価法 |
| ② 有価証券 | |
| ・その他の有価証券 | |
| 時価のあるもの | 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| 時価のないもの | 移動平均法による原価法 |
| ③ たな卸資産 | |
| ・商品、製品、原材料、仕掛品、貯蔵品 | 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切り下げの方法により算定） |
| ・未成工事支出金 | 個別法 |

(2) 固定資産の減価償却の方法

法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

- | | |
|-----------------------------|--|
| ① 有形固定資産 | 定率法によっております。 |
| （リース資産を除く） | ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。 |
| ② 無形固定資産 | |
| ・自社利用のソフトウェア | 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。 |
| ・その他の無形固定資産 | 定額法によっております。 |
| ③ リース資産 | |
| ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 | リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。 |

(3) 引当金の計上基準

- | | |
|---------|--|
| ① 貸倒引当金 | 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 |
| ② 賞与引当金 | 従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。 |

③ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は、以下のとおりです。

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により按分した額を、発生の翌事業年度から費用処理しております。

④ 役員退職慰労引当金 役員に対する退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

⑤ 受注損失引当金 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における受注案件のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができるものについて、その損失見込額を受注損失引当金に計上しております。

(4) その他計算書類作成のための基本となる事項

① 退職給付に係る会計処理 退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

② のれんの償却方法及び償却期間 のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

③ 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が74,249千円増加し、利益剰余金が47,787千円減少しております。また、当事業年度の営業損失、経常損失及び税引前当期純損失はそれぞれ1,512千円減少しております。

なお、当事業年度の1株当たり当期純資産額が1.48円減少し、1株当たり当期純損失金額は0.05円減少しております。

3. 表示方法の変更

従来、「営業外収益」の「その他」に含めて計上しておりました受取ロイヤリティーは、当事業年度より、「売上高」に含めて計上することに変更しました。

この変更は、海外進出を推進する中で、今後、技術供与先より受け取るロイヤリティー収入についての重要性が増すことが予想されるため、当社の営業活動の成果をより適切に表示するために行うものであります。

4. 貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の一部を次のとおり担保に供しております。

工場財団

担保に供している資産

建物	256,949千円
構築物	34,541千円
機械及び装置	18,829千円
土地	2,193,637千円
計	2,503,957千円

担保に付している債務

長期借入金	50,000千円
-------	----------

- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 12,681,584千円

(3) 偶発債務

子会社の金融機関からの借入金に対してその56%を保証しております。

GEOSTR-RV PTE. LTD. 48,916千円

(1,000千シンガポールドルの56%)

(4) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

- ① 短期金銭債権 1,220,153千円
- ② 短期金銭債務 941,511千円

5. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

- ① 売上高 1,948,465千円
- ② 仕入高 2,437,809千円
- ③ 営業取引以外の取引高 27,785千円

(2) 特別損失に計上されている関係会社株式評価損は、レスコハウス株式会社に係る株式評価損であります。

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度期末の株式数
普通株式	31,530,000株	—	—	31,530,000株

(2) 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度期末の株式数
普通株式	243,482株	1,346株	—	244,828株

(注) 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加分であります。

7. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産	(千円)
退職給付引当金	74,403
役員退職慰労引当金	16,923
繰越欠損金	93,780
賞与引当金	71,286
ゴルフ会員権評価損	13,015
減価償却費	12,909
土地評価損	13,720
棚卸資産評価損	30,531
資産除去債務	25,877
関係会社株式評価損	143,426
その他	43,344
繰延税金資産小計	539,218
評価性引当額	△216,133
繰延税金資産合計	323,085
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	13,962
その他有価証券評価差額金	318,344
資産除去債務	1,269
繰延税金負債合計	333,576
繰延税金負債の純額	△10,490
流動資産－繰延税金資産	215,362
固定負債－繰延税金負債	225,853

(2) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部改正する法律」が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.64%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.10%、平成28年4月1日以降のものについては32.34%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が6,694千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が25,789千円、その他有価証券評価差額金が32,484千円それぞれ増加しております。

8. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称・住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容	議決権等の 所有割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円) (注1)	科目	期末残高 (千円)
					役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	新日鐵住金 株 東京都千代 田区	419,524,979	鉄鋼の製造 及び販売	(被所有) 直接 40.7 間接 1.6 計 42.3	兼任2名 転籍3名	土木製 品の受 託製造	土木製品の 受託製造 (注2)	1,948,465	売掛金	289,728
									前受金	232,958
						資金の預 託先	CMS預け金 (注3)	901,002	預け金	901,002
						受取利息 (注3)	1,694			

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
上記取引については、個別交渉の上決定しております。
3. 取引条件及び取引条件の決定方針
資金の預託については、キャッシュ・マネジメント・システム（CMS）利用契約を締結し、市場金利を勘案して決定しております。なお、取引の実態を明瞭に開示するため、取引金額は純額表示としております。

(2) 子会社等

種類	会社等の名称・住所	資本金又は出資金 (千円・万シ ンガポール ドル)	事業の内容	議決権等の 所有割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円) (注4)	科目	期末残高 (千円)
					役員の 兼任等	事業上 の関係				
子会社	レスコハウ ス株 東京都文京 区	350,000	鉄筋コンク リート系ブ レハブ住宅 設計、施工、 販売、住宅 の補修施工	(所有) 直接 100.0	兼任2名	当 社 製品 の仕 入・ 販 売	土地の貸与 (注1)	13,950	預り金	326,315
							資金の預託 (注2)	396,837		
							利息の支払 (注2)	679		
子会社	GEOSTR-RV PTE. LTD. シンガポ ール	650	プレキャス トトンネル セグメント の販売	(所有) 直接 51.0	兼任1名	役員 の兼 任	増資の引受 (注3)	295,968	—	—

- (注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等
土地の貸与については、個別交渉の上決定しております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
資金の預託については、キャッシュ・マネジメント・システム（CMS）利用契約を締結し、市場金利を勘案して決定しております。なお、取引の実態を明瞭に開示するため、取引金額は純額表示としております。
3. GEOSTR-RV PTE. LTD. に対する増資の引受は、同社が行った第三者割当増資に対して3,315,000株を引き受け295,968千円を払い込んでおります。
4. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

(3) 同一の親会社をもつ会社及びその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の 名称・住所	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容	議決権等の 所有割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
					役員 の 兼任等	事業上 の 関係				
同一の 親会社 をもつ 会社	日鉄住金フ ァイナンス ㈱ 東京都千代 田区	1,000,000	金 銭 の 貸 付、金 銭 債 権 の 買 取	—	—	手形 の 譲渡先	手形 の 譲渡 (注)	6,161,261	未収入金	1,692,695

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針

手形の譲渡については、手形売買基本契約書を締結し、手形の額面金額にて譲渡を実施しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 427円73銭 |
| (2) 1株当たり当期純損失 | 16円32銭 |

(注) 計算書類中の記載数字は、表示単位未満の端数を切り捨てております（1株当たり情報については表示単位未満を四捨五入）。